

成田歴史玉手箱

●63回●

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

JR成田駅と1本の古木

お不動様の分身と崇められた「不動の椎」



地元の人々に大切に守られてきた不動の椎

木は樹齢700年ともいわれるシイの木です。その昔、駅周辺は松や杉がうっそうと茂る山林で、湯殿権現社が祀られていたことから権現山と呼ばれていました。

何故、現在まで残されているのか確かな理由は分かりませんが、こんなエピソードが伝えられています。明治30年の鉄道の開設以前、成田詣は泊り掛けの旅で、門前町の旅館は隆盛を極めていました。旅館には各地から多くの仲居さんが働きに来ていましたが、故郷を離れ心もとない日々を送る彼女たちは、シイの葉を一枚懐にしにのばせ心の拠りどころにしたといひます。そしてシイの木は、参拝客や地元の人々からもお不動様の分身として崇められ「不動の椎」と呼ばれるようになりました。

ところで、初代成田駅の駅舎とプラットホームは、今



初代成田駅構内。右端がプラットホームと駅舎でその奥に権現山の森、左は囲護台。昭和10年に権現山を切り開き、現在の位置に成田駅が建てられた(大正時代中頃か、藤崎登喜夫氏所蔵)

JR成田駅中央広場の片隅に大きな木があるのをご存知ですか。「大変古そう、ポツンと一本あるので何か理由でもあるのでしょうか」と問い合せがありました。この



昭和35年頃の成田駅周辺の様子を窺える貴重な1枚。駅から国道51号を結ぶ通称・市役所通りはまだない。①二代目のJR成田駅②京成成田駅③不動の椎の木④旧市役所⑤かつて成田山と宗吾霊堂を結ぶ成宗電車が走っていた電車道⑥開運橋(市立図書館所蔵)

の1番線ホームの佐倉寄りに建てられていました(左写真)。大正9年、鉄道国有化により鉄道省(省線)となり、一段高い現在の場所に駅舎が移されたのは昭和10年。駅前広場ができるなど権現山の様相が一変しました。鉄道省時代に完成した木造の高架橋は、木下駅に運ばれ現在も使用されています。その後、42年間成田の表玄関として親しまれてきた駅舎は老朽化のため取り壊され、昭和54年に現在の駅舎が完成しました。改築の際、シイの木の伐採話が持ち上がりましたが、不動の椎の由来を知る人々の願いによって残されたといわれています。

成田鉄道-鉄道省-国鉄、そして昭和62年、民営化されJRと変遷してきた成田駅。移り変わる成田駅周辺の様子を見守り、当時の権現山の面影を伝えるのが、この1本のシイの木です。

編集後記

本号P11では市立図書館市史編さん班で調査を進めている仮称『大字別地域の事典』の刊行のために、古い資料や写真などの提供を呼び掛けています。ありそうでなく、手を尽くしても見つからず、偶然何かのときに思わぬ場所から発見されるのが歴史資料です。担当者に聞けば、旧市章の菓子の木型の発見もまったく偶然だとか。また、玉手箱に掲載した写真は、現在と当時の町の移り変わりを比較できる大変貴重な2枚。何気ない風景や地域のさまざまな行事の写真の中には、時代や背景を映し出し、過去の出来事を彷彿させるものが多々あります。まさに「写真は歴史を語る」といわれるゆえんです。ご協力をお願いします。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。